

2025年 日本離床学会 認定試験

＜総評＞

今年度もオンラインで認定試験が開催され、事前に実施された模擬試験による接続テストの効果もあり、試験当日は大きなトラブルなく全受験者がスムーズに解答を提出することができた。昨年度に引き続き、問題数は50問とし、臨床に即した実践力を問う設問が多く出題された。受験者からは「問題に集中できた」「実践の場面を思い浮かべながら解答できた」との声が聞かれ、試験内容がより臨床に近づいていることを実感させる内容であった。

筆記試験では、従来の知識問題に加え、症例に基づく応用力が求められる設問が多く、呼吸・循環・脳神経・整形といった主要領域に加えて、栄養・認知症・フレイル・悪性腫瘍・検査データ・画像所見など、多岐にわたる知識が求められた。

離床アドバイザー試験は、臨床で求められる知識と技術をバランス良く問う構成であったが、85%の正答基準を満たした受験者がいなかったため、今年度も合格者はなしとなった。基礎知識の暗記だけでなく、臨床での実践経験や応用力の重要性が改めて浮き彫りとなった。

離床プレアドバイザー試験では、当会公式テキスト「実践！離床完全マニュアル2」からの出題を中心に、フィジカルアセスメントや検査・薬剤に関する問題も含まれていた。こちらも実践を意識した設問が多く、試験の傾向に変化がみられた。

すべての受験者には、合否通知とあわせて、分野別の正答率や今後の学習に向けたコメントを記載した詳細な採点チャートを送付している。自身の課題を明確にし、次のステップアップにつなげていただきたい。また、当会ホームページでは過去問の一部を公開しているので、出題形式や傾向の把握に活用して欲しい。さらに、実技試験の実技要綱も掲載しているので、あわせて参考されたい。

▶ 試験詳細・過去問・実技要綱の掲載ページ

<https://www.rishou.org/qualification/shiken-hani-yoken#/>

離床インストラクター筆記試験の合格者は、2025年9月開催の実技試験、もしくは10月の離床技術マスター合宿にて、実技試験を経てインストラクター認定を受けることができる。資格取得に向けた準備をしっかりと進めて欲しい。

＜離床インストラクター筆記試験 対策＞

離床インストラクターは離床に関する基礎知識はもちろん、研究データの臨床応用、離床の実践に関する知識など出題範囲が多岐に渡るため、離床アドバイザー取得者にとっても難易度の高い問題となる。よって、基礎知識の復習に加え、離床に関する最新のエビデンスや、各分野のガイドラインにおける関連項目をチェックすることが必要となる。また、症例ベースの臨床的設問が多く、時間配分が難しいのもインストラクター試験の特徴である。基礎問題を正確かつ短時間で回答し、症例問題にしっかりと時間を掛けられることも対策として重要である。

＜離床アドバイザー筆記試験 対策＞

離床アドバイザーは、当会理論コースと実技コースを修了したレベルと同等の知識レベルが要求される。つまり臨床であらゆる診療科の患者に対して離床を行うための知識、アセスメント、離床を実践するポイント、技術を全て知っていることが求められる。疾患に偏らず、

検査データや薬剤に関する問題も一定の割合出題されるため、幅広い分野の学習をお勧めする。また、離床の実践問題の割合についても、インストラクターと同様多く出題されるため、アセスメントを統合した臨床判断を、日ごろから鍛錬する必要がある。

＜離床プレアドバイザー筆記試験 対策＞

離床プレアドバイザーは例年同様当会公式テキスト（実践！離床完全マニュアル2）の内容を中心の出題となった。同テキストの内容を中心に基礎事項は確実に正答出来るようにおさえることが一番のポイントとなる。その他、離床の実践問題として、症例問題も一定の割合で出題されるので、過去の問題などを参考に、対策を立てて欲しい。

＜次回認定試験の予定＞

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ・離床インストラクター実技試験 | 2025年9月15日（月・祝）東京 |
| ・離床技術マスター合宿 | 2025年10月12日-13日（日・月祝）熱海 |
| ・2025年認定試験（筆記） | 2026年3月20日（金・祝）オンライン予定 |